

再生医療実現拠点ネットワークプログラム
疾患特異的 iPS 細胞の利活用促進・難病研究加速プログラム
研究開発課題評価（令和 5 年度実施）
事後評価結果

研究開発課題名	難治性骨軟骨疾患に対する革新的 iPS 創薬技術の開発と応用
代表機関名	国立大学法人京都大学
研究開発代表者名	戸口田淳也

1. 総合評価

良い

【評価コメント】

新規の創薬プラットフォームの樹立とその応用という二つの目標に対して、新規の病態再現を目指した骨と軟骨でそれぞれの培養系を樹立することに成功した点は評価できる。骨芽細胞から骨細胞への変遷過程を可視化する技術、肥大軟骨細胞への分化誘導法や成長軟骨板組織や内軟骨性骨化組織の形成法など、骨軟骨疾患の病態解析に有用な技術を開発し、対象疾患に関する病態解析、候補化合物同定に活用した点も評価できる。対象疾患において多くの病態解明につながる成果が創出されている。特に、後縦靭帯骨化症における hepatic fibrosis signal の関与は興味深い。若手研究者の育成なども貢献が認められる。しかしながら、発表論文数、寄託数、研究成果の企業・他支援プログラムへの移行件数は目標に達していない。特許出願件数は 2 件あるものの研究拠点 I としての期待に対しては不十分であった。技術導出は基本的な技術移転を 2 件実施できたものの、治療薬創出につながる企業への導出には至っておらず、今後に期待する。